



発達障害がある子どもの力を信じる・親を支える

今回の災害では、子ども達の心のケアが丁寧に長期にわたって提供されることが必要です。ここでは、発達障害がある子どもとその家族への対応支援について述べます。何よりも子どもの力を信じて、親を支えることが重要だと思っています。

1. 発達障害がある子どもの力を信じる

①「発達障害のある子ども」と一括りにしない

私たちが支援や対応を考えるときは、できるだけ分類し、パターン化し、一定の手順にそえるような手引きを求めたくなります。なので、発達障害のある子どもに対して「してよいこと、してはいけないこと」を知りたい、というようなことが生じます。でも、発達障害の特性がそれぞれ異なるうえに、子ども達一人ひとりの育ち方もみなそれぞれです。

発達障害のある子どもを簡単に一括りにして考えないこと、これを最初に提案したいと思います。

②子ども達の言動と状況をよく見る

そのうえで、子ども達ひとりひとりの言動と、そもそもの状況をよく見ることです。

実際に災害被害を体験した子どもと、直接の被害は少ないけれど余震などを継続的に体験している子ども、さらに遠方ながら、日々のニュースで、人ごとではないように疑似体験している子どもと、その状況はさまざまです。また災害を体験した子どもでも、どれほど切実な恐怖体験をしたかどうかでも異なるはずです。そのうえで、大切な人や物を失ったか否かということでも、その背景が異なるはずです。発達障害のある子どもが示す言動も、いつもよく見かける言動が強く激しくなったのか、小さい頃に認めた言動がぶり返したのか、これまでであった言動が目立たなくなったのか、今回の災害に関連した言動かなども、その子の今の心の有り様が異なるはずです。

③発達障害のある子どもに安心と時間を提供する

私は、子どもが示す言動はすべて意味のあることで、そのなかで子ども達は持てる力を

回復していくと信じています。例えば、指しゃぶり、添い寝の要求、赤ちゃん言葉といった赤ちゃん返りにしても、不安・緊張が強ければ、大切な親から（再び）育ちのエネルギーを補給してもらおうと、一時的に幼い頃に戻ろうとしているのだと理解します。悪い徴候ではなく、必要な行為と理解します。ミニカーをはなさい、同じ絵を描き続ける、なんども同じことを尋ねるといったこだわりが、せっかく弱まってきたのに、また激しくなったというときは、「危機的な時に、特性は強く表れる」と思って、時間を味方に、そのうち収まると余裕をもって関わってください。

夜にうなされることや寝言が目立つとたら、「睡眠中に一生懸命心の整理をしている最中のね」と思い、そばで「大丈夫よ」とつぶやいてください。

遠方なのに、「うちも地震が来る？津波がくる？」といったときは、お母さん（お父さん）が一緒であること、「護るよ、大丈夫」と安心を伝えてください。

発達障害のある子どもというよりも、これまで付き合ってきた『個性的な特性をもったわが子』がなにを表現しようとしているのか想像し、そのうえで「大丈夫」であること、「時間が解決してくれる」ことを、うろたえず、どっしりと構えて、不変の安心感を提供してあげてください。

環境変化に弱いこと、見通しが持てないことに不安がること、こうした特性が強い子ども達にとって、今の状況はつらいはずですが。それでも「変わらないこと」があることを伝えることはできます。近くに親や友人がいれば、その存在が安心のひとつに、もし親と離れている子どもだとしたら、周囲の大人が食べる、遊び、寝るといった1日の過ごし方を安心のひとつとして提供し、遠方ながら不安の強い子どもには、テレビを消して外で遊ぶことで、あるいは、もっとも興味関心のあることを共有することで、世界が不安と恐怖で一色になっているわけではないことを体験させてほしいと思います。

2. 親を支える

子どもを中心に書いてしまいましたが、親もまた災害を受けて傷つき疲れています。親だからといって、子どものために24時間気を張り続ける必要はありません。周囲の力を当然のように求めることです。親が子どものいないところで、弱音を吐き、愚痴をこぼし、涙にくれる必要があります。そうした時間と空間を作りましょう。最終的には親は強いです。でもその強さを発揮するまえに、一休みしてほしいと思います。災害に拘わらず、発達障害のある子どもの養育は大変なご苦勞を伴うものです。それをこれまでやられてきたわけです。

大丈夫、いざとなったら親にかなう人はいません。でも、今はみんなの力を借ります。

3. 専門家との連携

最後に発達障害のある子どものなかには、薬物療法を受けている場合もあるがはずです。できるだけ早くに主治医や専門医と連絡がとれるように、公的機関などへ連絡してほしいと思います。

親も子どもも、ひとりぼっちじゃありません。

ひとりでかかえこまないことです。

北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター

田中康雄